

佐伯地区医師会

インフルエンザについて

今年もまたインフルエンザの季節がやってきます。悪寒、高熱、頭痛、関節痛、強い倦怠感、そして肺炎・脳炎を合併する事もあるインフルエンザには型が有り、それぞれの型も変異するため繰り返して罹患します。ウイルスが口や鼻から入り、体の中で細胞に浸入して増えると症状が現れます。不活化ワクチンには感染を抑える働きはありませんが、発症を抑える効果と重症化を防ぐ効果が期待できます。現在日本で認可されているのは、A型2株とB型1株の計3株が入った不活化ワクチンです。毎年シーズン前に流行株を予想して型が決められワクチンが製造されます。小児は2～4週間あけて2回、13才以上は1回接種となっています。ワクチンの効果は接種後2週間から5ヶ月程度とされています。早すぎると効果が切れてしまいますが、

流行前にワクチンをすませる必要があります。流行の時期は毎年異なりますが、10月～遅くとも年内には接種しましょう。高齢者については入院や死亡を減らす効果はあるとされていますが、効果は100%ではありません。副反応として接種部位の発赤・腫れや発熱、頭痛、だるさ等がみられる事がありますが、通常1～2日で症状は治まります。まれにアレルギー反応がみられる事もあります。日本ではまだ認可されていませんが、卵を使わず細胞培養から作るワクチンや、鼻に投与する生ワクチンもあります。痛くなく、より効果のあるワクチンの実用化が望まれます。

かわぐちこどもクリニック
院長 河口園江